

授業科目	成人看護実習 1	3 学年・後期・3 単位 (135 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	城丸瑞恵 (保健医療学部研究棟 E209 号) e-mail : shiro.m@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口裕紀子、小木曾寛樹、他		
概要	成人期にある個人が手術・麻酔によってもたらされる心身の侵襲から速やかに回復しセルフケア能力が発揮できるように、個人とその家族に対して倫理的視点に基づき必要な看護を実践する能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期から回復期に至る患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践について評価することができる。 2. 患者の安全を守り、患者の状態に適した安楽・自立・自律を考慮して(指導の下)援助することができる。 3. 実践における人間関係の重要性を認識し、患者とその家族の心理状態に応じた関わりがもてる。 4. 急性期から回復期に至る患者とその家族に対し、生活の視点から、回復を促進するために必要な教育的働きかけができる。 5. 医療チームの一員として、患者とその家族に対する継続看護の必要性を述べることができる。 6. 看護学生として責任をもち、倫理的側面を考慮した行動をとることができる。 		
評価	実習状況およびレポートにより評価する。 ・実習状況(95%)については、実習記録、実習態度、実習内容、等を統合し、評価表に基づき評価する。 ・レポート(5%)については、内容の到達状況により評価する。		
履修上の留意点	成人看護方法 2、成人看護方法 4 の単位を取得していること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4 名前後のグループに分かれ、外科系病棟において 3 週間実習する。外科的療法を受ける患者 1 名を受け持ち、臨床指導者の指導のもと、周手術期における看護を実践する。適宜、カンファレンスを開催する。 2. 受持ち患者が手術の際は、手術室において見学実習を行う。 3. 集中治療部門または高度救命救急センターにおいて見学実習を行う。 4. 実習終了後に実習記録とレポートを提出する。
実習期間	9 月末～翌年 1 月末予定
実習場所	札幌医科大学附属病院の外科病棟、および手術部、集中治療部門病棟、高度救命救急センター
実習時間	基本的に 9:00 ～17:00 である。ただし、学習状況および受持ち患者の状況により変更がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある受持ち患者に対し、必要な看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・外科的治療に伴う身体的侵襲や心理的緊張、状態変化を予測してアセスメントを行う。 ・臨床指導者の指導のもと、生理的機能の維持や心理的安定のための援助を行う。 ・機能障害とその回復の程度を判断し、回復過程を促進する援助計画を立案し実施する。 ・患者の状態変化にあわせて再アセスメントし、計画を修正する。 2. 治療・処置やケアに対する患者、家族の意思を知り、援助関係を構築する。 3. 病棟・手術室・集中治療部門の継続看護、手術室における術中看護の 実際について知る。 4. 集中治療部門、高度救命センターの看護の特徴について知る 5. 医療チームの一員として、また看護学生という社会的立場を踏まえ、責任を持って行動する。 6. 学内および病棟カンファレンスを通し、体験した看護現象について洞察する。